

ウガンダ月報(2018年10月)

主な出来事

【内政】

- ブドゥダにおける土砂崩れ
- ムシシ・カンパラ市事務局長の退任
- ウガンダ国内の難民の生体認証による確認作業

【外政】

- 第9回コンゴ(民)の平和・安全及び協力の枠組に関する会合の開催
- クテサ外相のコンゴ(民)訪問
- ムセベニ大統領のイギリス訪問
- クテサ外相のカガメ・ルワンダ大統領表敬訪問
- ムセベニ大統領の南スーダン訪問

【経済】

- 政策金利の引上げ
- 1月から8月までの経済成長率は7%を記録
- ウガンダ開発銀行はインド輸出入銀行から7年間で500万ドルを借入れ

【日・ウガンダ関係】

- オケロ・オリェム国務大臣のTICAD閣僚会合出席
- JICAのナカワ職業訓練校協力50周年式典、ディプロマ・コースの開始
- ナイル架橋建設計画の完工式

【内政】

- 11日、ウガンダ東部のブドゥダ県で発生した土砂崩れで約60名が亡くなった(25日付ニュー・ビジョン紙)
- 15日、ムシシ・カンパラ市事務局長(カンパラ市当局の首席行政官)は、ムセベニ大統領宛の書簡の中で事務局長を12月15日で退任する旨を明らかにした。同事務局長は同ポストを約7年半務めたが、政治的支持の欠如を退任理由の一つとして挙げた。(16日付及び17日付ニュー・ビジョン紙)
- 29日、ウガンダ首相府(OPM)、UNHCR及びWFPは、ウガンダ国内の難民の生体認証による確認作業を24日に終了した旨の共同プレスリリースを公表した。3月に作業を開始した時点では難民は140万人と想定していたが、合計で110万人の難民が確認された。(29日付、UNHCR事務局発プレスリリース)

【外政】

- 8日、カンパラ郊外で開催された、第9回コンゴ(民)の平和・安全及び協力の枠組に関する会

合を主催したムセベニ大統領は、「コンゴ(民)の問題はウガンダにも長い間影響を及ぼしてきたが、それでも我々は干渉には慎重である。コンゴ(民)が、政府、地域の関係者、ドナー及び国際機関と連携すれば、その不安定要素を取り除く可能性がある。」と述べた。本会合にはキール南スーダン大統領及びルング・ザンビア大統領等が出席した。(10日付ニュー・ビジョン紙)

- クテサ外相は、8日にカンパラで開催された第9回コンゴ(民)の平和・安全及び協力の枠組に関する会合のすぐ後の16日にカビラ・コンゴ(民)大統領を訪問し、ムセベニ大統領からの特別メッセージを手交した。メッセージの内容は公表されなかった。本会合は、12月23日のコンゴ(民)大統領選に向けての準備の最中でコンゴ(民)の政治的緊張が高まっている時に開催された。(19日付ニュー・ビジョン紙)
- ロンドンで開催された、違法な野生動物取引に関する第4回会合で、11日、ムセベニ大統領は、「違法な野生動物取引がアフリカ経済に及ぼす負の影響を取り除かねばならない。」と述べた。(12日付ニュー・ビジョン紙)
- 25日、クテサ外相は、カガメルワンダ大統領を表敬訪問し、ムセベニ大統領の特別メッセージを手交した。クテサ外相はカガメ大統領と二国間の国益について議論し、緊密に協力しながら、両国間の協力の幅を広げ深化させることを約束した。ムセベニ大統領のメッセージの内容は公表されていない。(26日付ニュー・ビジョン紙)
- 31日、ムセベニ大統領は、南スーダンを訪問し平和記念式典に出席した。ムセベニ大統領は、「外国人は南スーダンをリビアやソマリアのように空白地帯にしたがったが、ソマリアは現在復活しつつある。同胞の間の政治的問題を解決するために一切戦争をしてはならない。政治的問題は議論又は自由で公正な選挙を通じてのみ解決できる。」と述べた。(11月1日付ニュー・ビジョン紙)

【経済】

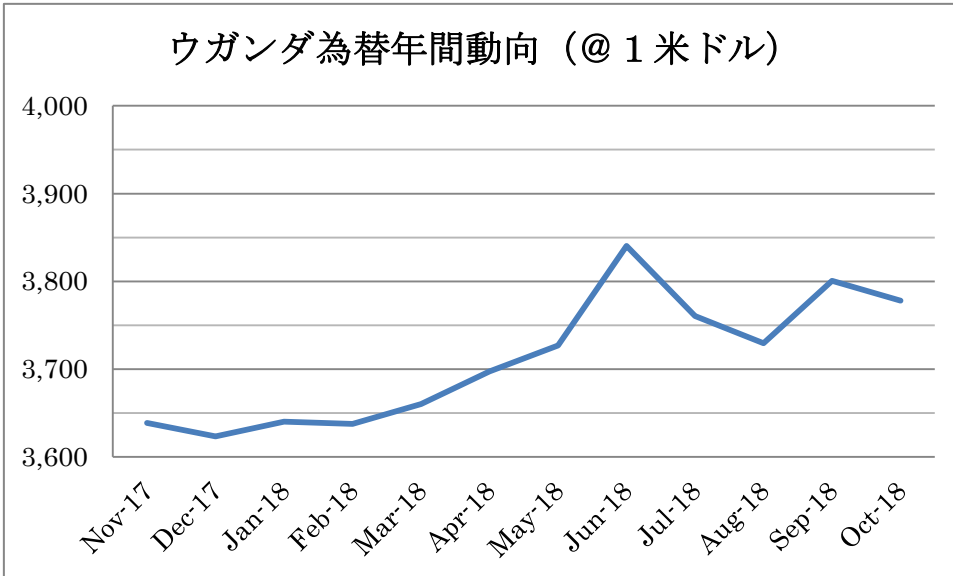
- ウガンダ中央銀行(BOU)は、シリング安及び国際的な石油価格の高騰によるインフレ圧力の高まりから、(金融政策を)緊縮することとなる。BOUは、3日、政策金利を9%から10%に引き上げることとした。10月及び11月の金融政策に関する声明の中で、BOUのムテビレ総裁は、「インフレ率を5%に近づけるという目標を目指し、経済成長を維持するためには、金融政策を幾分引き締めなければならない。」と述べた。(4日付デイリー・モニター紙)
- 公共インフラへの投資及び海外直接投資の回復によって、2018年1月から8月までの経済成長率は7%を記録した。BOUによると、国内需要の堅調な伸び及び農業生産の向上によって、この好景気もたらされた。ムテビレ総裁は、経済成長率は、昨年度は5.8%であったが、今年度は6.5%になると述べた。(5日付ニュー・ビジョン紙)
- 8日、ウガンダ開発銀行のオジャンゴレ総裁は、インド輸出入銀行から7年間で500万ドルのローンを借り入れた旨発表した。同総裁は、「本ローンにより中小企業への貸出しを増やし、ウガンダ国内の生産を促進できる。」と述べた。(10日付ニュー・ビジョン紙)

【日・ウガンダ関係】

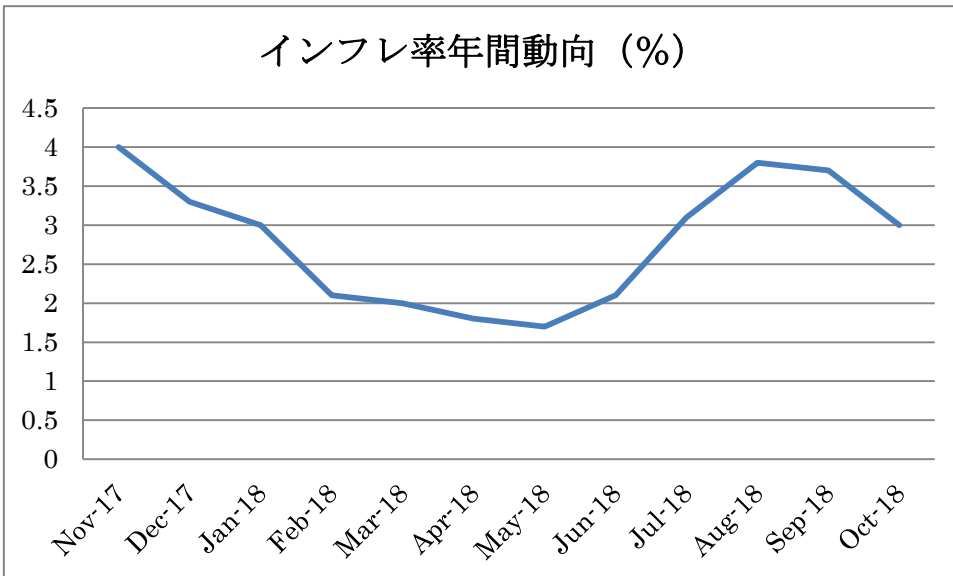
- 6日、TICAD閣僚会合で訪日中のオケロ・オリエム国際問題担当国務大臣は、辻清人外務政務官と会談を行った。同国務大臣は記者に対し、「会談では、南スーダンの合意及びソマリア・ブルンジに駐留するウガンダ軍についても話題に上り、二国間協力における多くの約束に至った。」と述べた。同国務大臣は、日本に、新たな道路建設等のための借款を要請した。(8日付デイリー・モニター紙)
- 10日、ジャネット・ムセベニ教育・スポーツ大臣(ムセベニ大統領夫人)を主賓として、JICAのナカワ職業訓練校協力50周年式典が開催された。同校は、ディプロマ・コースを開始した。(11日付、15日付及び17日付ニュー・ビジョン紙、)
- 17日、ムセベニ大統領臨席の下、当地訪問中の佐藤外務副大臣が出席する形で、ナイル架橋建設計画の完工式が執り行われた。(18日付ニュー・ビジョン紙及びデイリー・モニター紙)

(別紙)2018年10月主要経済指標(ウガンダ中央銀行)

・ウガンダ・シリング為替相場@1米ドル:3,778.0シリング(前月3,800.7シリング)



・インフレ率(前期比年率):3.0%(前月3.7%)



・政策金利: 10. 0%(前月: 9. 0%)

